

令和5年度 宮井小学校 学校評価結果について

1 学校評価について

学校評価は信頼される開かれた学校づくりをめざして、「児童がよりよい教育活動を受けること」をねらい、「学校をよりよくする」ために、学校・保護者の方々・地域の方々の協力により進めていく活動です。児童・保護者のアンケート結果や本年度の教育活動の振り返りをもとに教職員の自己評価などの学校評価を行います。学校評価を今後の学校運営や学校改善に生かし、児童や保護者、地域に信頼される開かれた学校づくりをめざして取組を進めます。

2 学校評価の活動について

学校評価の活動は、大きく次の5つの活動を行います。

- 児童・保護者アンケート ■教職員の自己評価 ■学校関係者評価
 ■学校評価結果を受けての今後の改善策の検討とまとめ ■学校評価結果及び今後の改善策等の公表

3 学校評価の回答数と回答率について

児童(回答率 95%) 保護者(回答率 67%) 教職員(回答率100%)

4 学校評価アンケートの結果と課題、次年度への取組について

今年度の学校評価アンケート(児童・保護者・教職員)の結果を比較できるようにグラフにまとめました。「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」「信頼される学校づくり」の4つの領域と学校教育全般についてのご意見・ご感想、家庭教育に関するアンケート、自由記述について記載しております。

※グラフの見方につきましては以下のような表にまとめています。

グラフの見方	児童	■ そう思う ☒ だいたいそう思う □ あまりそう思わない ▣ 思わない
	保護者	■ よく当てはまる ☒ 当てはまる □ あまり当てはまらない ▣ ほとんど当てはまらない ☒ わからない
	教職員	■ よくできた ☒ だいたいできた □ あまりできなかった ▣ できなかった

確かな学力の育成について

○成果

児童の回答では、設問①「分かる授業」②「基礎学力の定着」について、①約87%、②約80%の肯定的回答を得ており、概ね高い評価であった。

保護者の回答では、①「分かる授業」については、83%、②「基礎学力の定着」では、95%で、⑤「家庭学習」の設問でも高い評価であった。

教職員の回答では、設問①「分かる授業」が約97%、②「基礎学力の定着」が約83%の肯定的回答を得ており、概ね高い評価であった。

○課題

設問③「表現力」については、保護者の肯定的回答が約75%、児童は約72%で少なく、教職員は約75%であった。

設問④「読書活動」については、肯定的回答が、児童は約62%、保護者は約87%、教職員は約50%、と不十分な結果が現れており、昨年度に続き課題となっている。

設問⑤「家庭学習」については、保護者の肯定的回答が約98%に対し、児童は約69%で少なく、教職員は約50%であった。

○次年度への取組 (R5年度の学校評価を基に検討)

○「表現力の育成」については、本年度、特別活動の研究大会に向け、学校挙げて取り組んできた。しかし、学級活動等の話し合いにおける活発な発表が、他の教科の学習においては少なく、自信のなさから発表に抵抗感を感じている児童が見受けられる。「表現力・発表力を付けるための工夫改善」を現在以上に行うためには、「表現(音声言語による表現・文字言語

による表現)する機会(授業中だけでなく)を増やし、児童一人一人に自信をもたせること」が肝要であると考える。

- 読書については、図書を身近に利用できる学級文庫や、図書室の環境を整えることが大切である。しかし、本校の図書室は、PC教室と併用していた当時の環境改善が進んでおらず、十分とはいえない。次年度においては、図書室の環境改善を図り、児童が、本と関わりをもてるような環境を整える必要がある。また、「読書活動をさらに充実させる」ためには、「集中して読書をするある程度の長さの時間を確保すること」が、欠かせないと考えられる。
- 家庭学習の習慣をいかに付けるかについては、「家庭学習のあり方や取り組み方」、「家庭学習の効果」等を、家庭と学校とが、より共通理解していくことが有効であろう。

【今年度への取組について(R4年度の学校評価を基に検討した主なもの)】

- 異学年児童間での読み聞かせを実施し、読み物に興味を持たせたり、表現する意欲の向上を図る。また、朝の活動や国語の授業、『徳島新聞阿波っ子タイムズ』の活用など、学校で読書の機会やきっかけをつくる。
- 学級活動での意見表示の工夫を行い、児童が意見共有できる機会を設け、自分の考えを分かりやすく伝える力や友達の考えを聞く力を育てる。また、相手の意見と比べながら聞いたり自分の考えを書いたりする機会を多く設定する。

豊かな心の育成について

○成果

全ての設問において、児童・保護者とも70%以上の評価が得られた。保護者は、全ての項目で、88%を超える肯定的回答が得られた。特に⑩「あいさつ」は、児童、保護者、教職員とも88%を超える高い数値であった。児童は、⑥「豊かな心や人間性の育成」が約84%、⑧「学びの生活化」が約81%、⑩「挨拶」は約92%と高い評価であった。教職員は⑩「挨拶の指導」が約92%の肯定的回答が得られた。

○課題

設問⑥「道徳教育・人権教育」、設問⑧「学びの生活化」については、児童、保護者の肯定的回答が80%を超えているのに対し、教職員は60%前後で低かった。

設問⑨「宮井校区のよさ」については、保護者の肯定的回答が92%で大変高いのに対し、児童は約76%、教職員は約66%であった。

○次年度への取組(R5年度の学校評価を基に検討)

○道徳や人権学習については、年間計画を立てその実施を基本にしながら、児童や学級の実態に合わせて、指導内容や学習方法を工夫しながら実施している。児童一人一人が「自分ごと」として課題を捉え、解決していく学習活動を実践することで意欲が高まると考える。

○本校の特色として、保護者や地域の方々と関わっての体験学習や行事が多い。ふるさと宮井のよさに気づくためには、単に行事や体験を増やすだけでなく、その目的を明確にして効果的に取り組めるようにすることで、「ふるさと宮井のよさ」を知っていると感じる児童をさらに増やしていくことができると考える。

○あいさつをする習慣については、少しずつ定着してきており、地域の方々にも認識していただいている。来年度以降も継続して取り組みたい。

【今年度への取組について(R4年度の学校評価を基に検討した主なもの)】

- 道徳教育や人権教育は授業の時間に加えて、学校教育全体を通して児童や学級の実態を踏まえながら行うなど日々の指導が大切である。
- ポジティブな行動支援を行い、自分や友達のよさを視覚化しながら児童相互に理解し合えるようにすることで自尊感情を高め、互いのよさを認め合える学級づくりに引き続き取り組む。
- 通常学級と特別支援学級の交流を大切に、互いに認め合い協力し合う人権意識を育成していく。
- 感染症5類への移行を契機に、体験活動や学校行事をできるだけ本来の形に戻しながら実施する。特別活動の実践を中心として、内容や方法を工夫して温かい雰囲気づくりを心掛け、思いやりのある態度が育成できるような学びの場を設定する。そして、保護者や地域の方の協力を得ながら、体験活動を通して宮井の校区や人のよさを実感できる児童の育成を目指す。

健やかな体の育成について

○成果

設問⑪「規則正しい生活」について、肯定的回答の割合が児童は約73%、保護者は約89%と教職員約92%で高くなっている。学年差や個人差はあるものの、毎朝元気に登校してくる児童の割合は高く、朝食の摂取もほぼできているようである。

設問⑭「外遊びの奨励」については、肯定的回答が児童は約83%保護者は約87%、教職員は約75%であり、一定の成果が見られる。

○課題

設問⑫「給食・食育」については、保護者から約92%の肯定的回答が得られたのに対し、児童は約76%でやや低く、教職員は約66%である。

設問⑬「体力の向上」については、肯定的回答が児童は約89%高くなっているが、保護者は約78%と教職員は約50%であり、課題が残る。

○次年度への取組（R5年度の学校評価を基に検討）

○「規則正しい生活」については、ゲームやスマホ等の利用時間の影響が大きい、不規則な生活が健康に及ぼす影響について学校で知らせることが必要である。さらに、生活についての児童の実態を把握した上で、情報機器の家庭での利用についても指導するとともに講演会等を開催し、児童とともに保護者にも参加してもらい、家庭にも協力を得て改善できるようにしていく。

○休み時間に外遊びをする児童は、一定の割合でいる。そこで、その数を増やすために学級活動や全校集会の内容を工夫し、楽しく運動できる機会を増やしていく。

○給食指導について、バランスの良い食生活の必要性を指導し、完食を指導するのではなく、個の実態に応じた指導にするよう方法を見直していく必要がある。

○今年度も、「あるこうデー」を設定し、実行してきた。天候に左右される面があり、自家用車による送迎は一定数見られた。保護者に協力を得ながら啓発活動をさらに続けていく。

【今年度への取組について（R4年度の学校評価を基に検討した主なもの）】

○学級活動や全校集会、朝活での「トキメキタイム」などの実施を通して、みんなで楽しく体を動かす機会を意識的に設けた。また、体操発表会、水泳検定会、陸上記録会、駅伝大会などの校外行事の練習の参加可能範囲を広げ、意欲的に運動に取り組む機会を増やした。

信頼される学校について

○成果

児童の回答では、設問⑯「学校行事の工夫・改善」、⑰「安全教育、環境設備」について、ともに約80%以上と、高い評価であった。

保護者の回答では全ての設問について約90%以上の肯定的回答を得ており、非常に高い評価であった。

教職員の回答では、⑮「児童理解」が約92%、⑯「学校行事の工夫・改善」が約93%、⑰「安全教育、環境整備」が約84%と、高い評価であった。

○課題

設問⑮の「先生との関わり」については、児童の肯定意見が約69%と、他の設問に比べると低く、教職員や保護者の意識との差が大きいことから、具体的な取組が必要である。

教職員の回答では、⑱「情報の公開」約68%、⑲「開かれた学校づくり」が約69%と、やや低い評価であった。

○次年度への取組（R4年度の学校評価を基に検討）

○「困ったときに先生に相談する」という児童は約69%である。教師との人間関係はある

程度築けていても、いざ悩みを相談する場合は抵抗を感じるようである。学期毎に実施している「学校生活アンケート」では、「困ったときに親に相談する」という児童が最も多く、「誰にも相談しない」という児童はほとんどいなかった。いじめの早期発見、対応のためには、少しでも教師に相談してくれる児童が増えることが望ましい。今後も児童理解に努め、児童との信頼関係を築くことを大切にしたい。

- 「情報の公開」や「開かれた学校づくり」で教職員の評価が、保護者の結果と開きがあったのは、受け手は、必要としている情報が得られているという認識であり、教職員は、「伝えたい、伝えるべき」内容がもっとあると感じていることが、その要因ではなかろうかと考える。来年度は、現在の発信内容を残しながら、学校として「伝えたい、伝えるべき」と感じる内容を追加していくことが必要である。来年度も「メール」「宮小だより」や「学校ホームページ」等による情報の発信を引き続き進めていく。

【今年度への取組について（R4年度の学校評価を基に検討した主なもの）】

- 児童理解は、全教職員で共通理解していくことが重要である。校内委員会やケース会議を、こまめに開催し、職員間の共通理解の場を設ける機会を増やす。
- 保護者に必要な教育情報等を毎日きめ細かく伝えていくことが、信頼される学校につながると考えるため、今後も家庭との連携を強化しながら取り組んでいく。
- 学校運営協議会を効果的に機能させ、より開かれた学校づくりを行えるようにする。

5 学校関係者評価について

■ 学校関係者評価とねらいについて

学校関係者評価とは、学校運営協議会委員（PTA役員、地域の学校関係者）により構成された学校関係者が、教職員の自己評価の結果や児童・保護者のアンケート結果などについて協議を行い、それを基本として行う評価です。学校関係者評価のねらいは、次の3点です。

- ・評価活動を通して保護者や地域住民などと互いに理解を深める。
- ・教職員による自己評価の客観性・透明性を高める。
- ・保護者や地域住民がよりよい学校づくりのプロセスに参加する仕組みをつくる。

■ 学校関係者評価の結果について

学校評価協力委員の評価結果（％は「よくあてはまる」・「おおむねあてはまる」の計）		
本校の教育	① 学校は、保護者や地域の願いに応えようとしている。	100%
	② 学校は、児童の教育に熱心に取り組んでいる。	100%
	③ 学校は、いじめのない明るい学校づくりに取り組んでいる。	100%
	④ 学校は、児童一人一人を理解し、よさや可能性を伸ばすよう心がけている。	100%
	⑤ 学校は、児童が楽しく学ぶために、「分かる」授業に努めている。	100%
	⑥ 学校は、地域と連携して教育活動を進めようとしている。	100%
	⑦ 学校は、感染症対策など教育活動の安全管理や教育環境の整備に努めようとしている。	100%
	⑧ 学校は、地域行事に積極的に関わろうとしている。	100%
児童の様子	⑨ 児童は、規則正しい生活を送っている。	83%
	⑩ 児童は、気持ちのよいあいさつができています。	100%
	⑪ 児童は、やさしく思いやりのある態度が見られる。	100%
	⑫ 児童は、元気になかよく遊んでいる。	83%
	⑬ 児童は、粘り強くがんばることができています。	100%

※学校運営協議会委員は、5名です。

■ 学校関係者評価の傾向や意見等について

◇本校の教育について

- ・学校運営協議会委員の方は、本校教育について①～⑧の観点について全ての方が、「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」として肯定的な評価をしている。特に②「学校は、児童の教育に熱心に取り組んでいる」は、全ての方が「よくあてはまる」という高い評価結果になっている。
- ・意見交換では、「睡眠不足が、学力に影響しているのではないか。そのため、学力向上には生活リズムの確立を図り、睡眠時間の確保などの取り組みが必要ではないか。」といった意見が出された。
- ・児童の肯定的な意見の割合が低かった「表現力」については、間違っても大丈夫だという学級の雰

囲気作りが大切になってくるのご意見をいただいた。また、楽しく学ぶために、積極的にグループ学習を行ってほしいとの意見もあった。

- ・「宮井のよさ」については、徒歩遠足などの校外学習を行って、実際に地域を歩き、文化や歴史を学ぶ場をつくってほしいという意見が多くあった。

◇児童の様子について

- ・全ての観点の児童の様子についておおむね肯定的な評価であった。スポーツや習い事をしている児童は、平日は、時間的に余裕がなく、さらに土日には試合等があり、疲労があるのではという報告がされた。

◇その他意見

- ・ゲームやスマホの影響が、子どもたちの生活に大きな影響を与えていると感じることがある。保護者が、子どもの実態をどこまで把握理解しているかが、改善に向けて必要になるとの意見も出された。
- ・特別活動の実践で得られた成果を来年度もしっかり生かして、子どもたちの教育を進めてほしい。

6 学校評価結果及び今後の改善策等の公表について

学校評価結果及び今後の改善策等につきましては、「宮小ホームページ」「PTA会合」等を通して広く公開したり、説明したりしていきます。学校評価の取組を通して、これからの宮井小学校がより「魅力のある学校」となるよう取り組んでいきたいと考えています。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。